

三中だより

令和6年度 7月号



令和6年7月1日発行

荒川区立第三中学校

(学校通信 No. 5)

校長 小柴 憲一

空間軸・時間軸で遠い人を守ろうとする人になってほしい
—SDGs「17のゴール」から考える—

私たちが緊急性・重要性の高い事案を何よりも優先して対処しようとし、緊急性・重要性の低い事案は後回しにするのはごく当たり前のことです。問題は、「緊急性が高く重要性の低い事案」「緊急性が低く重要性の高い事案」に対してどのように処理していくかなのです。

一般的に、「緊急性が高く重要性が低い事案」に対しては、短期的な計画を立て、他の事案に対応しながらも、エネルギーを当該の事案に注力して、ことが大きくなならないうちに、あるいは期限にぎりぎり間に合うように処理していくことと思います。しかし、「緊急性が低く重要性が高い事案」に対しては、重大だと認識しながらも、当面、自分が大きな被害を受けることもなく、また身近な人が特別な悪影響を受けることもないので、当事者意識をもちにくく、そのまま何も手をつけないまま、時を過ごしていく傾向にあります。

それが、空間軸・時間軸で遠い人に対する意識の希薄さの表れだと私は思うのです。

そこで、今では知らない人はほとんどいなくなったSDGsを例に考えてみます。

持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは開発途上国のみならず、先進国自身、あるいは世界全体で取り組む普遍的なものなのです。

それでは、17のゴールとはどのようなものがあるのでしょうか。ここでは、平易な文脈でまとめた公益財団法人日本ユニセフ協会のホームページを参考に整理してみます。

1	<u>貧困をなくそう</u> 地球上のあらゆる形の貧困をなくそう 世界では、6人に1人(3億3,350万人)の子どもたちが、「極度にまずしい」暮らしをしています。
2	<u>飢餓をゼロに</u> 飢えをなくし、だれもが栄養のある食料を十分に手に入れられるよう、地球の環境を守り続けながら農業を進めよう 世界を生徒40人の教室と考え、その日食べるものがない、明日以降も食べ物をえられるか分からない状態の人が4人もいます。
3	<u>すべての人に健康と福祉を</u> だれもが健康で幸せな生活を送れるようにしよう サハラ以南のアフリカ地域では、2人に1人の子どもが、かぜで肺炎になっても治療を受けられません。
4	<u>質の高い教育をみんなに</u> だれもが公平に、良い教育を受けられるように、また一生に渡って学習できる機会を広めよう サハラ以南のアフリカ地域では、5人に1人が小学校に通えません。
5	<u>ジェンダー平等を実現しよう</u> 男女平等を実現し、すべての女性と女の子の能力を伸ばし可能性を広げよう

	6歳から11歳の子どものうち、一生学校に通うことができない女の子は男の子の約2倍です。
6	<u>安全な水とトイレを世界中に</u> だれもが安全な水とトイレを利用できるようにし、自分たちでずっと管理していけるようにしよう 水道の設備がない暮らしをしている人は22億人以上います。トイレがなく、道ばたや草むらなど屋外で用を足す人は4億1,900万人です。
7	<u>エネルギーをみんなに。そしてクリーンに</u> すべての人が、安くて安全で現代的なエネルギーをずっと利用できるようにしよう 世界で電力を使えない人は7億3,300万人です。
8	<u>働きがいも経済成長も</u> みんなの生活を良くする安定した経済成長を進め、だれもが人間らしく生産的な仕事ができる社会を作ろう 世界のもっと貧しい国々には、5歳から17歳までの子どもの5人に1人が、労働を強いられています。
9	<u>産業を技術革新の基盤をつくろう</u> 災害に強いインフラを整え、新しい技術を開発し、みんなに役立つ安定した産業化を進めよう 世界では、約27億人の人びとがインターネットにアクセスできません。特に開発が遅れている国々には農村部では、13%の人が携帯電話の電波が届かないところに暮らしています。
10	<u>人や国の不平等をなくそう</u> 世界中から不平等を減らそう 多くの国でかつてないほど格差が広がっています。2017年には、世界のもっとも豊かな1%の人が世界全体の富の約33%を持っていました。
11	<u>住み続けられるまちづくりを</u> だれもがずっと安全に暮らせて、災害にも強いまちをつくろう 過去40年にわたって、人びとが避難や移住をしなければならないような自然災害の発生件数が大きく増えています。
12	<u>つくる責任、つかう責任</u> 生産者も消費者も、地球の環境と人々の健康を守れるよう、責任ある行動をとろう 世界で生産されている食品の約3分の1(13億トン)が捨てられています。
13	<u>気候変動に具体的な対策を</u> 気候変動から地球を守るために、今すぐ行動を起こそう 世界中で気候変動が起こっています。過去30年間の日本の熱帯夜の平均日数は、1910年からの30年間の平均の約2.8倍です。
14	<u>海の豊かさを守ろう</u> 海の資源を守り、大切に使おう 私たちが使っているペットボトルやビニール袋などのプラスチックゴミが年間900万～1,400万トン(2016年時点)、海に流れ出しています。
15	<u>陸の豊かさでも守ろう</u> 陸の豊かさを守り、砂漠化を防いで、多様な生物が生きられるように大切に使おう 鳥類14%、針葉樹34%、哺乳類25%、両生類41%は、絶滅の危機にさらされていると推定される割合です。
16	<u>平和と公正をすべての人に</u> 平和でだれもが受け入れられ、すべての人が法や制度で守られる社会をつくろう 世界のどこかで、5分に1人、子どもが暴力によって亡くなっています。
17	<u>パートナーシップで目標を達成しよう</u> 世界のすべての人がみんなで協力しあい、これらの目標を達成しよう

国際協力がますます必要とされている一方、2018年に政府開発援助(ODA)に使われたお金は、前年に比べて、2.7%(およそ40億ドル)減少しました。
--

我が国では、持続可能な開発目標(SDGs)推進本部が設置され、アクションプランや実施指針が策定されるとともに、各国の首脳が集まりに参加し政治宣言の採択に貢献しています。

ただし、何のゴールに向けて何が行われているのか、歳出予算の何がどのように使われているのかは、国民には十分に伝わってきていないように思います。あえて言えば、JICAなどが開発途上国に職員を派遣して、水を引いたり電気を通したり、現地の子どもたちの教育を行ったりという地道で直接的な活動は見えてきますが、私を含めて果たして国民全体がどれだけの関心をもっているのでしょうか。

かつてスウェーデンの環境保護活動家グレタ氏が、気候変動に対する強硬な抗議活動を行ったり、CO₂を排出しないヨットで大西洋を横断したりするなどの活動は各国で報道され、世界へのアピールとなり、グレタ氏の考えに賛同する人々や団体も構成されるようになりました。

しかし、日本国民を含め各国の国民多数は、「のど元過ぎれば熱さ忘れる」でその後の関心は薄らいでいきました。

これはなぜなのでしょう。

気候変動自体は重要な地球規模の問題です。しかし、今、私たちは気候変動により何か大きな被害を受けたり犠牲になったりしているわけではありません。大きな被害を受け犠牲になるのは、私たちの子どもたちなのです。時間軸で言えば孫や曾孫などやや遠い子孫になるかもしれません。だから、緊急性を感じることができずに、国民一人一人が当事者意識をもつことなく時間が過ぎていっているのです。

もちろん、エコという用語が使われた商品開発が進んだり、食品ロスへの取り組みが啓発されたり、レジ袋の有料化が日常的になったりなど、SDGsのゴールに関連した取り組みが広がってきていることは肌で感じます。ただし、私たちは、それがどのゴールに向けた取り組みなのかを明確に理解する必要があると思います。そして、「言われているから」「推奨されているから」という気持ちでただ行動を変化させるのではなく、「一人一人が将来や世界の子孫のために今から着手するんだ」という強い認識をもつことだと思います。

行政によるSDGsのゴールに向けた施策に関しても、まだ所管課が予算要望しても、なかなか十分な措置がされていないのが現状ではないのでしょうか。

だからこそ、私たち国民から、「一人一人が将来の子孫や世界の人々のために、今から着手するんだ」という世論を高めていくことにより、行政にとっても直近の解決すべき課題となって、歳出予算として計上されるようになり、ゴールに向けた取り組みが加速されるのではないかと思います。

現状では、SDGsの17のゴールすべてについて、遠く縁がない国々の人々のためや、将来の人類のために行動に移すことは、現代では緊急性があるとは認識されにくい状況です。私たちの次の代、あるいはその次の代の今の子どもたちにしわ寄せを残すことになってしまわないよう、今の子どもたちには、空間軸・時間軸で遠い人を守ろうとする人になってほしいと思います。

忙しかった6月、そして夏休みに向けて

6月1日までの3年修学旅行、6月8日の運動会、6月19日からの定期考査及び三組清里移動教室、6月26日からの2年下田移動教室と、質が異なり大きな教育活動が立て続けにありました。

このようなとき、子どもたちにとっては優先順位を付けにくく、目の前にある教育活動に専念するため、振り返ってみるとあっという間の1ヶ月間だったと感じるのではないのでしょうか。

さて、大人になると時間が経つのが長いと感じることが多いと聞くことがあります。原因は、大人は毎日が同じことの繰り返しで心ときめく瞬間が少ないのに対して、子どものうちは見るもの聞くものなど多くの事柄が新鮮で興味・関心が湧くため時間が経つのが早いと感じると言われることがあります。まさに今月の本校の子どもたちは、そのとおりであり、言い方を変えると充実した6月だったと思います。

今後、終業式までの間、大きな行事はありませんが、子どもたちには次の目的意識をもたせて学校生活を送らせたいと考えております。

1年生は、9月25日から始まる清里移動教室の事前学習が始まることと思います。

2年生は、9月3日から始まる勤労留学に向けて、準備を終わらせなくてはなりません。

3年生は、多くの子どもが部活動を引退し、いよいよ進路選択を考え、夏休みに入ってから三者面談に備えなければなりません。

また、三組を含め全学年で10月19日の輝汐祭舞台の部で行われる合唱コンクールの選曲が始まるのではないかと思います。

これらのように、先を見通させることにより、マンネリ化させず、めあてをもってメリハリのある学習活動になっていきます。

ご家庭でも、夏休みの予定があるのではないのでしょうか。それらの予定については、子どもたちに伝えることにより、学校で配布する「夏休みのしおり」の中の「自分の計画」を立てることができるようになりますので、ご協力いただけると幸いです。

なお、夏休み中で全校にかかわることとしては

●7月22日(月)～26日(金) 補充教室

●8月13日(火)～16日(金) 教育活動休止日

●8月19日(月)～21日(水) 夏季水泳指導

●8月19日(月)～23日(金) 補充教室(1年生)

がございますので、参加希望の活動があれば計画に入れてください。

また、部活動の練習計画や合唱コンクールの指揮者・伴奏者練習、連合体育大会の練習・選考会につきましては、個人によって異なるでしょうし、3年生は夏季講習などを受講する子どももいると思いますので、それらも含めて夏休みの「自分の計画」を立てて、常に何らかの目的意識をもって毎日を過ごす夏休みにしてほしいと思います。

お知らせ

●6月30日に開催された「鉄人レース・イン・汐入」において、以下の子どもたちがボランティアとして応募しました。

1年 井上 日渚、掛川 大輝、河野上 大嘉、高橋 優希、平塚 聡、猪野塚 愛佳、
石井 諒佑、児玉 こまち、大友 沙耶、近藤 希、増岡 紡

2年 小郷 心美、並木 莓衣、岡寄 愛、溝上 真央

3年 永岡 美奈、山西 純世、平塚 美羽

●第40回荒川区中学校総合体育大会兼夏季選手権大会バレーボール女子の部において、以下の成績を収めました。

第3位(ブロック大会進出)

●第75回東京と中学校地域別(区部)陸上競技大会の男子共通400mリレーにおいて、以下のチームが46秒49のタイムで都大会の標準記録を突破したため、第63回東京都中学校総体陸上競技大会並びに第69回東京都中学校通信陸上競技大会に出場することとなりました。

水谷 朝陽(2年)・大橋 亮佑(2年)・松月 莉仁(3年)・渡部 大雅(3年)